



か 鍛じ 治や屋 みなみ だて 館かつ 勝み 美 さん (63歳)

トンテン、トンテン・・・ハンマーで地鉄（じてつ）を力強く打つ音が、外まで響いています。市内でただ一軒になってしまった鍛冶屋・南館勝美さんの作業場は、石切所字船場になります。

鍛冶屋になつたきっかけは、子供の頃、よく遊びに行つていった近所の鍛冶屋で、もの作りに魅せられたことと、親方に誘わ

その中で一番気を遣う作業は、地鉄に鉄蠅（てつろう）で鋼を付けるときだそうで、「この仕事は、何年やつてもこれでいいということではなく、火や鉄、いろんな条件が微妙に関わり、いい品物を一定して出すことが難しいが、注文があれば何だつてこなすのが鍛冶屋だ」といいます。

南館さんが作ったクワ、カマ、ナタ、包丁などの製品は、福岡、一戸、伊保内、輕米の市日に売っています。二十年くらい前までは、クワやスキなどの農具

土間の作業場では、手押しのフイゴを静かに押したり引いたりしながら、火床（ひどこ）に風を送つて炭をおこし、その中で赤々となつた地鉄を火ばしでそろりと引き出して、今では珍しくなつたチヨウナ（まき割り道具）を打つていました。

鍛冶屋になつたときからは、午前中に地鉄や鋼を打つて製品を作り、午後からその製品をグラインダーで磨いて、焼き入れをし、砥石（といし）で刃を研いで、やつと一日の仕事を終えるのは辺りが真っ暗になつてからです。

そして、その包丁を使ってみた人は、地鉄と鋼を鍛えて作った製品ならではの「さくつ」とした感触が、切るときに心地よいといつてくれるそうで、「何十年も使って良かつたと言つてまた注文してもらったときが一番嬉しい」といいます。

南館さんは後継者はいませんが、「よく切れて、使いやすい」と評判が立つような仕事を、体の動く限り続けていきたいと静かにフイゴを動かしながら抱負を話してくれました。

楽しく美しい まちづくり通信…⑬

よく切れで 使いやすいものを目指して 鉄を打つ



市日に売られる農具や刃物

★5月★

30日(木)ごみゼロの日	29日(水)	28日(火)	27日(月)	26日(日)	25日(土)	24日(金)	23日(木)	22日(水)	21日(火)	20日(月)	19日(日)	18日(土)	17日(金)	16日(木)	15日(水)	14日(火)	13日(月)	12日(日)
											(旧八戸街道跡)							
											歴史の道散策会							
											(市保健センター)							
											4ヶ月児健康診査							
											(市保健センター)							



5月11日～6月10日